

史料館

本校創立110周年記念事業として、昭和63(1988)年10月30日、完成。本校ゆかりの先人たちの肉筆書画をはじめ、多くの貴重資料を取蔵している。

【1階常設展示品】

書幅／加藤恒忠書(号・拓川、正岡子規叔父)・日下伯藏書(明教館教授)・草間時福書(初代校長、福沢諭吉門)・水野広徳書(海軍大佐・「此一戦」作者)・高橋龍太郎書(大日本麦酒社長、政治家)・安倍能成書(学習院院長、文部大臣)

句幅／内藤鳴雪・高浜虚子・河東碧梧桐・寒川鼠骨・松根東洋城・村上露月・柳原極堂・中村草田男・石田波郷

絵画／「孔子像」狩野邑信画・細井広沢賛・「野の草花」杉浦非水画(多摩美大学学長)「孟冬」下村為山画(洋画家・俳画家)・「韓信出胯下図」櫻井忠温画(号・双樹、「肉弾」作者)「大壺図」小池邦夫画(日本絵手紙協会会長)

扁額／「公心如日月」秋山好古書(陸軍大将)・「静黙治道」秋山好古書(陸軍大将)・「讀而思思而行」安倍能成書(学習院院長、文部大臣)・「学知真處」勝田主計書(政治家)

書簡／正岡子規(大原恒徳宛)・夏目漱石(菅虎雄宛)・伊丹万作(「楽天」同人・近藤是悟宛)・伊藤大輔(「楽天」同人・近藤是悟宛)・秋山真之(村井俊明宛)

成績資料／正岡子規・秋山真之(明治15年2月)
水木要太郎(奈良女子大学教授)松山中学校大試験学業優等証・褒賞記録

辞令／草間時福(初代校長・明治11年6月7日付)

西河通徹(第2代校長・明治13年4月9日付)

色紙／服部嘉香(詩人・国文学者)・大江健三郎(ノーベル文学賞作家)・天野祐吉(子規記念博物館長)・早坂暁(シナリオライター、作家)

短冊／柳原極堂(俳誌「ほととぎす」創刊)・大友柳太朗(映画俳優)・草間時福(初代校長)

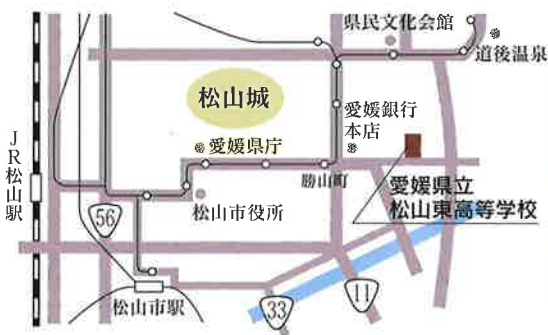
自筆原稿／大江健三郎『松山東高校文芸誌「掌上」投稿詩、編集後記』

自筆扇子／西村清雄(賛美歌404番「山路越えて」作詞者)

彫塑／「子規小康」中村勝作(昭和2年卒)・「恐怖の均衡」乗松巖作(昭和4年卒)「海峡」芥川永作(昭和7年卒)

伝統工芸／砥部焼鶴首徳利一對(高浜虚子・立子染筆)・砥部焼大皿(櫻井忠温絵付)他

その他／夏目漱石欠勤届(明治29年4月6日、横地石太郎校長宛)・夏目漱石年賀状(明治33年、同45年、横地石太郎宛)・水野広徳中佐欧州見学送別筵芳名録(大正5年6月21日・碧梧桐題、秋山好古など)・大江健三郎卒業写真(昭和28年)・松山東高校校歌自筆楽譜(近衛秀麿作曲)生徒会誌「青柳」、同窓会誌「保恵会雑誌」・「明教」、周年記念誌等



明教の響き



明教館由来 文政11年2月3日(1828)、松山藩第11代藩主松平(久松)定通(老中松平定信の甥)が、文教興隆の基として創立。書院造り、桁7間、梁5間、入母屋造り、鍔(しころ)屋根を付け、棧瓦ぶき、大棟鬼瓦には星梅鉢の紋、降鬼瓦、隅鬼瓦には立葵の紋が入っている。内部はたたみ敷きで正面側面の三方には板敷廊下が巡らされている。明治維新後は、県学校・英学所などと呼ばれたが明治11年6月、松山中学校となる。本校の移転(大正5年二番町から現在地に)後、昭和12年に、明教館も現在地に移築、昭和20年7月の大空襲からも守り抜く。昭和44年2月12日愛媛県指定有形文化財建造物に指定される。本校伝統の起源として、光輝ある象徴として今日に至る。

愛媛県立松山東高等学校

〒790-8521 愛媛県松山市持田町二丁目2番12号

電話(089)943-0187

FAX(089)934-5766

<http://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/>

いのちまた燃えたり

～本校ゆかりの人々～

あきやま さねゆき
秋山真之
(慶応元.3.20～大正7.2.4)
軍人

松山市歩行町の生まれ。明治16年本校輩出。親友の正岡子規と神田に下宿。海軍兵学校卒。日清戦争を経て米国に留学。帰国後も戦術研究に没頭する。日露戦争では、連合艦隊司令長官東郷平八郎の幕僚として丁字戦法によってロシア、バルチック艦隊を撃破した。司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」に秋山兄弟が描かれている。

あきやま よしふる
秋山好古
(安政6.1.7～昭和5.11.4)
軍人

松山市歩行町の生まれ。藩校明教館に学ぶ。陸軍士官学校・陸軍大学校を経てフランスに留学。日清・日露戦争に功績をたて陸軍大将となる。騎兵の基礎を確立。近衛師団長・教育總監などを歴任。晩年北予中学校長。

あべ よししげ
安倍能成
(明治16.12.23～昭和41.6.7)
哲学者・教育者

松山市大街道の生まれ。明治34年本校卒。第一高等学校・東京大学卒。京城大学教授。一高校長を経て戦後文部大臣。学習院院長となる。夏目漱石の門下。著書「西洋古代中世哲学史」、「西洋道徳思想史」等。

いしだ はきょう
石田波郷
(大正2.3.18～昭和44.11.24)
俳人

松山市西垣生町の生まれ。本名哲大(てつお)昭和5年本校卒。「馬酔木」に参加。同誌編集に携わる。句集「鶴の眼」により人間探求派と呼ばれ、以後俳壇の主流として活躍する。

いたみ まんさく
伊丹万作
(明治33.1.2～昭和21.9.21)
映画監督・シナリオ作家

松山市三番町(旧北京町)の生まれ。本名池内義豊。大正6年本校卒。以後独学。昭和3年片岡千恵蔵プロに入社。監督作品に「国土無双」「赤西罌太」等、シナリオに「無法松の一生」等、著書に「映画雑記」などがある。映画監督・俳優の伊丹十三氏の父。

いまい よしゆき
今井嘉幸
(明治11.5.25～昭和26.6.30)
弁護士・代議士

西条市小松町(旧周桑郡小松町)の生まれ。明治30年本校卒。第一高等学校を経て東京大学独法科卒。本校時代に級長として「坊っちゃん」のバツタ騒動に関係する。大陸に渡り孫文の顧問をつとめ、帰国後、大阪から国民党代議士として当選。民主主義の先駆者であるとともに南画、俳句をよくする。

かたがみ のぶる
片上伸
(明治17.2.20～昭和3.3.4)
評論家・教育家

今治市波止浜の生まれ。明治33年本校卒。早稲田大学卒。同文学部教授。大正4年から2年間ロシアに留学。10月革命後帰朝し、ロシア文学科主任教授を経て文学部長となる。著作「生の要求と文学」「芸芸評論」等。

まさおか しき
正岡子規
(慶応3.9.17～明治35.9.19)
俳人・歌人

松山市花園町(旧新玉町)の生まれ。本名常規(つねのり)。明治16年本校輩出。明治25年東京大学国文科を中退し、日本新聞社に入社。俳句・短歌の革新。多くの句・歌のほか、「俳諧大要」「歌よみに与ふる書」「病牀六尺」などの著がある。

まつねとうようじょう
松根東洋城
(明治11.2.25～昭和39.10.28)
俳人

東京築地の生まれ。本名豊次郎。明治30年本校卒。第一高等学校、東京大学を経て、京都大学法学部卒。宮内省に入り式部官、宮内書記官、会計審査官を歴任。漱石に師事、はじめ「ホトギス」に拠る。大正4年より、「洪柿」を創刊、主宰する。芸術院会員。著書「漱石俳句研究」「俳諧道」「黛」「薪水帖」等。

まなべ かいちろう
真鍋嘉一郎
(明治11.8.8～昭和16.12.29)
医学者・教育家

西条市大町の生まれ。明治29年本校卒。第一高等学校・東京大学医科大学卒。明治44年からドイツ留学。帰朝後、母校の教授となる一方、伝染病研究所、物理的療法研究所などの指導歴役割を果たす。

みずの ひろのり
水野広徳
(明治8.5.25～昭和20.10.18)
軍人・軍事評論家

松山市三津浜の生まれ。明治28年本校卒。海軍兵学校卒。明治38年日本海海戦に第41号水雷艇長として参加。第一次世界大戦後の欧州を視察し、平和主義者となる。著書「此一戦」等。

むらかみ せいげつ
村上霽月
(明治2.8.8～昭和21.2.1)
実業家・俳人

松山市西垣生の生まれ。本名半太郎。明治19年本校卒。明治24年第一高等学校中退。愛媛銀行等の頭取、愛媛信用組合連合会(現愛媛県農業会)の会長などを歴任、地方財界の重鎮であった。また、鳴雪、子規、漱石等と親交し、書画もよくした。日本派俳人。著書「霽月句集」。

やなぎはらきよくどう
柳原極堂
(慶応3.2.11～昭和32.10.7)
俳人

松山市二番町(旧北京町)の生まれ。本名正之。明治14年9月本校入学、同16年4月上京。共立学校卒。海南新聞記者を経て伊予日々新聞社経営。俳誌「ホトギス」「鶏頭」創刊。句集「草雲雀」等。

やまもと よしはる
山本義晴
(明治9.9.11～昭和23.11.9)
実業家

松山市本町(旧出淵町)の生まれ。明治28年本校卒。第五高等学校に学ぶ。会社、銀行の重役として地方実業界に貢献するところが多かった。また松山商工会議所会頭、愛媛県教育会副会長、本校同窓会長を歴任。

かとう つねただ
加藤恒忠
(安政6.1.22~大正12.3.26)
外交官・政治家・実業家

松山市湊町の生まれ。明治3~8年明教館に学ぶ。司法省法律学校・仏学塾・パリに留学。外務省に入り外交官として活躍。衆議院議員を経て貴族院議員。松山市長。著書「拓川集」。

かも まさお
加茂正雄
(明治9.8.15~昭和35.8.29)
工学者

松山市三番町(旧榎町)の生まれ。明治25年本校卒。第二高等学校・東京大学卒。東大教授。機械学会会長として諸国との連繫をはかる。わが国最初のタービン汽船を建造。法政大学工学部の創立者。

かわひがしへきこう
河東碧梧桐
(明治6.2.26~昭和12.2.1)
俳人

松山市千舟町の生まれ。本名兼五郎(へいごろう)。明治27年仙台二高中退。俳句を子規に学び、高浜虚子とともに子規門下の双璧といわれた。子規歿後新傾向の俳句に向かい、後自由律の句風に移った。句集、評論等多数。

くらはし むねよし
倉橋宗由
(明治17.7.7~昭和51.6.8)
教育者

上浮穴郡美川村の生まれ。明治36年本校卒業後、陸軍士官学校に進む。陸軍歩兵中佐。長く松山中学校教官を勤め、本校に山岳部を創設。松山スキークラブ初代会長、松中同窓会会長等を歴任した。

こじま うまきち
児島馬吉
(明治元.1.26~昭和22.2.26)
教育者

伊予郡松前町大字浜の生まれ。敬称馬さん。日清戦争に従軍、数々の武勲をたてた。明治30年6月本校に習字・体操の教師として着任。以来本校在任39年。昭和11年3月退任。

こばやし のぶちか
小林信近
(天保13.8.28~大正7.9.24)
実業家・政治家

松山市堀之内の生まれ。少時藩主の小姓役となる。明治3年松山藩少参事、廃藩後は郡長を経て、第52国立銀行、伊予鉄道、水力電気等の会社を創設し、その主脳に推される。また県会議長、松山市会議長、衆議院議員等に選ばれる。

さえき ただす
佐伯 矩
(明治9.9.1~昭和34.11.29)
栄養学者

西条市氷見の生まれ。明治27年本校卒。第三高等学校・京都大学卒。国立栄養研究所初代所長。日本栄養学会の創設者で初代会長。佐伯栄養学校創設者。世界的な栄養学の権威。「栄養効率の研究」その他の論文がある。

さくらい ただよし
桜井忠温
(明治12.6.11~昭和40.9.17)
軍人・作家

松山市大街道の生まれ。明治32年本校卒。陸軍士官学校卒。日露戦争に連隊旗手として出征、第12中隊長として旅順攻略戦に参加。昭和5年少将を最後に予備役。著書「肉弾」「銃後」「草に祈る」等。

しょうだ かずえ
勝田主計
(明治2.9.15~昭和23.10.10)
政治家

松山市一番町(旧御宝町)の生まれ。明治16年本校入学。明治28年東京大学法科卒。大蔵省に入る。大蔵次官・貴族院議員・朝鮮銀行総裁を経て、大蔵大臣(2回)・文部大臣・内閣参議を歴任する。

しらかわ よしのり
白川義則
(明治元.12.12~昭和7.5.26)
軍人

松山市二番町の生まれ。明治14年本校入学。陸軍士官学校・陸軍大学校を卒業後、日清・日露両戦役に参加。以後、陸軍省人事局長・陸軍次官を経て、昭和2年陸軍大臣。さらに同7年、上海派遣軍總司令官として活躍。

すぎうら ひすい
杉浦非水
(明治9.5.15~昭和40.8.18)
造形美術家・教育家

松山市松前町の生まれ。本名朝武。明治27年本校入学。東京美術学校日本画科卒。雑誌「明星」等の口絵を描く。光風会創立。多摩帝国美術学校校長、全日本商業美術連盟結成委員長、芸術院恩賜賞。

たかはしりゅうたろう
高橋龍太郎
(明治8.7.15~昭和42.12.22)
実業家・政治家

喜多郡内子町の生まれ。明治26年本校を経て第三高等学校卒業。同年大阪麦酒入社。昭和12年大日本麦酒社長、同21年貴族院議員。昭和26年通産大臣。その他東京商工会議所会頭。日本蹴球協会会長など歴任。

たかはま きよし
高浜虚子
(明治7.2.22~昭和34.4.8)
俳人

松山市湊町の生まれ。明治25年本校卒業。第二高等学校中退。本校在学中正岡子規を知る。明治31年復刊後の「ホトギス」主宰。その足跡は近代俳句史そのものである。芸術院会員。昭和29年文化勲章を受ける。小説「俳諧師」「鶏頭」句集「句日記」等。

ないとう めいせつ
内藤鳴雪
(弘化4.4.15~大正15.2.20)
俳人

江戸松山藩邸の生まれ。安政4年明教館に学び、後昌平坂学問所に入る。松山藩権少参事、愛媛県学務課長、東京の常磐会寄宿舎監督となる。著書「鳴雪俳話」と評釈「俳句はいかに作りいかに味ふか」等。

なかむら くさたお
中村草田男
(明治34.7.24~昭和58.8.5)
俳人

清国(現中国)福建省廈門(あもい)の生まれ。本名清一郎。大正10年本校卒。東京大学文学部卒。人間性に根ざした俳句を模索し、人間探求派と称された。昭和21年、「萬緑」を創刊、主宰する。翌年、現代俳句協会を結成したが、新たに俳人協会を設立、初代会長に就く。成蹊大学教授。句集「長子」など著書多数。

なつめ そうせき
夏目漱石
(慶応3.2.9~大正5.12.9)
英文学者・作家

東京牛込の生まれ。明治26年東京大学卒業。同28年本校勤務、同29~30年第五高等学校勤務、同33~36年ロンドン留学、同36~40年東京大学勤務、以後作家として活躍。作品は小説・評論・詩など数多い。

にしむら すがお
西村清雄
(明治4.2.13~昭和40.12.25)
教育者

松山市永木町の生まれ。明治17年本校に入学。16歳の時、洗礼を受け、大阪で英語を学ぶ。ジャドソン女史が不就学児教育のため夜学校を計画したのに共鳴したのが発端で、働きながら学ぶ青少年のための松山夜学校(後の城南高校)の教育に生涯献身した。

ふなだ かずお
船田一雄
(明治10.12.7~昭和25.4.18)
司法官・実業家

上浮穴郡久万町明神の生まれ。明治29年本校卒。第五高等学校・東京大学卒業。水戸・東京地方裁判所検事。明治44年三菱合資会社に入社、昭和11年三菱商事KK取締役会長、昭和18年三菱本社取締役理事長となる。